



看護部通信



2020年9月

コロナ禍の影響で祭典などの伝統行事が中止となる中、地域の人たちがこれからの行事の有り方について検討し、地域の活性化や文化継承に繋げようと新たな伝承方法に挑戦しています。こんな時だからこそなおさら、ひととのつながりを大切に思う気持ちが行動を起こす原動力なのだと、強く感じますね。（看護師長会）

「感謝」

1病棟 S

私の息子は、小学校3年生から野球を続けてきました。中学校3年生になった今年は、新型コロナウイルスの影響もあり休部期間もありましたが5月からは練習が始まり、6月からは練習試合も行われました。例年通りの中総体は中止になりましたが代替大会が予定され、大会に向けて練習を続けていました。

大会を1カ月後に控えた練習試合で相手選手と交錯し転倒。診断結果は足首の骨折で、松葉杖の生活が始まりました。翌日から、学校へは車で送迎することになりましたが、車から降りるとすぐに他の生徒がかけつけ、声を掛けて荷物を運んでくれました。部活動でも周囲のサポートもあり、徐々に練習を再開し何とか大会には間に合いました。試合には途中出場し、足を引きずるようにベースを回る姿には感動しました。

この1カ月間は息子が怪我により、残念な気持ちもありましたが、それ以上に周囲の人に支えられていることをあらためて感じる事ができました。関わってくれたみなさんに「感謝」したいと思います。



当たり前のように友達が手を差しのべてくれる関係、心が温まりますね。

「名門復活に期待をして」

1病棟 T

先日、能代工業高校の名称が能代科学技術高校に変更になることが正式に決定しました。ネットで話題となり、能代工業の名前を残してほしいと署名が集まりましたがその願いは届かず、秋田県議会で名称変更が決定しました。

自分は高校までバスケットをしており、2回ほど公式戦で試合をして80点差、60点差で負けたことは良い思い出として残っています。近年ではアフリカからの留学生を受け入れる学校も多く、身長で劣る能代工業は全国で勝ち上がることも難しくなっています。2007年に開催された秋田国体で優勝したのを最後に、全国大会での優勝から遠ざかっているのが現状です。

身長が低いながらもボールに食らいついて相手より走るスタイルは、日本のバスケットのスタイルとなるものであるため、名称が変更されても受け継いでほしい、日本のバスケットの成長に繋がってほしいと願い、応援したいと思います。

能代工業高校バスケット部の輝かしい活躍は、国民の憧れと希望でした。小さな巨人のノールックパスに魅了されたひとも多くは、多かったです。

